

広島県立文書館収蔵文書展 広島県の鉄道のおゆみⅢ

アーカイブズにみる 芸備線の成り立ちと地域

令和8年3月17日(火)～6月13日(土)

入場無料

広島県立文書館展示室

開館時間 9:00～17:00(土曜日は12:00まで)
日曜日・祝日・休日は休館

文書館講演会

アーカイブズにみる芸備線の成り立ちと地域 (仮題)

※収蔵文書展に関連した内容の講演です。

開催期日：令和8年6月6日(土)10:00～12:00

開催場所：広島県情報プラザ2階 第1・2研修室

講師：西向宏介(広島県立文書館職員)

募集定員：80名

申込方法：電話・FAX・Eメール・往復はがきで5月29日(金)までにお申し込みください。

広島県立文書館

〒730-0052 広島市中区千田町三丁目7-47
TEL 082-245-8444 FAX 082-245-4541
E-mail monjokan@pref.hiroshima.lg.jp

ホームページ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/monjokan/>



アーカイブズにみる芸備線の成り立ちと地域

広島県の陰陽連絡鉄道路線として敷設された芸備線は、大正年間に芸備鉄道の路線として敷設が始まり、岡山県の備中神代から敷設が始まった国鉄三神線（工事線名は「三新線」と昭和11年（1936）10月10日につながり、翌年7月1日に、国鉄「芸備線」となりました。

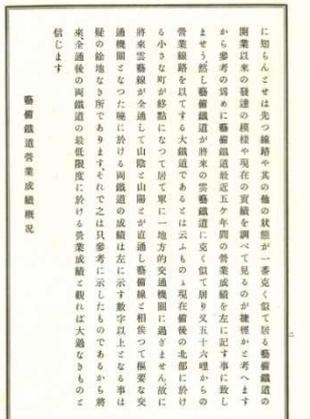
戦後は準急・急行などの優等列車が行き交う路線として賑わいましたが、備北の山間部を走る路線は、過疎化の進行に伴って利用客が著しく減少し、それとともに利便性も失われ、今では全国屈指の赤字ローカル線となっています。

令和6年（2024）1月12日には、国土交通省中国運輸局が、芸備線備後庄原～備中神代間の存廃をJR西日本と沿線自治体が話し合うための再構築協議会の設置を決定し、協議が行われています。

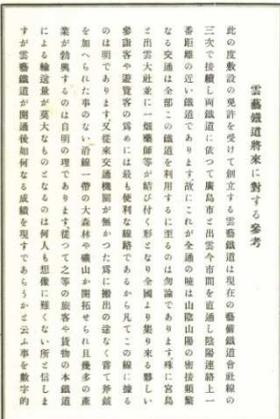
今回の収蔵文書展では、今まさに岐路に立たされている芸備線をテーマに取り上げ、路線の敷設過程や優等列車の往来で賑わった時代の様子、車両や沿線風景を紹介します。また、沿線地域の歴史にも焦点を当て、たたら製鉄や畜産・林業等で栄えた時代の古文書も紹介します。



「落合」の地名
（「小鳥原芸藩通志控」）
文政8年(1825) 200907-8



雲芸鉄道将来に対する参考 大正13年8月 200407-3357



岡山及大社鉄道線路略図（明治29年） 200611-67



備後落合停車場
昭和12年12月『木次線全通記念絵葉書』
200407-3342



備後落合～道後山間 第一小鳥原川橋梁にて
昭和42年1月3日 200407-2976



道後山駅にて 発車前の新見発
広島行き(左) 昭和42年1月3日
200407-5550



備後西城～平子間にて 58系気動車
昭和62年8月9日
200407-5550



急行ネコマスノーエクスプレス
志和地～上川立間にて
平成32年2月12日
200407-5550



快速 お座敷ファミリー備北号
備後三日市～七塚間にて
平成33年10月28日
200407-5550



駅弁の掛紙 200407-600・604・605